

松戸花卉研で過ごした日々とこれから

花卉園芸学研究室 4年

徳本 翔子

3年生の夏休み前に配属される研究室が決まり、本稿を執筆している9月で研究室生活が始まって1年が経ちます。様々なイベントや出来事があり、私にはあつという間だったと感じられます。そんな日々を過ごした松戸の研究室を、振り返りながら紹介したいと思います。

過去の花卉園芸学研究室レポートで何度か紹介されていますが、週2回行う共同作業が、研究の次に、研究室での生活の中心でした。共同作業は主に圃場の整備、ハウスの整備、キャンパス内の整備などを行います。整備と書きましたが、作業内容はほとんどが除草や草刈りです。ハウスの側窓を直したり、作業棟の片付けをしたりすることもあります。私たちが管理している圃場の範囲はとても広く、そこを少人数の学生で整備するため、除草や草刈りといった作業が多くなり、作業の8割を占めていたような気がします。夏場の作業では、皆がまるでシャワーを浴びたかのように汗だくになります。そのようになりながらも、きれいになった圃場やハウスを見ると、何とも言えない達成感が得られます。毎週の共同作業は、クモが大嫌いな私にはクモとの戦いの時間でもあります。クモ本体、クモの巣、クモの糸のすべてが嫌いです。そのどれかを見つけると「わあああ！」「ぎゃあああ！」などと叫んでしまいます。「その叫んでいる姿を見るのは飽きた」と言われながら、先生に笑われながらも、毎度同じリアクションでクモに怯えながら作業に参加しています。

研究室に配属された当初、私は植物の名前をほとんど知りませんでした。自分で植物を育てたのは小学生の時のアサガオくらい、知っている花の名前はチューリップやバラなど小学生でも知っているようなものくらい…。その状態で迎えた11月の戸定祭。松戸と柏の研究室が一緒におこなう1年に1度だけのフラワーショップですが、私は楽しむ余裕はまったくなく、植物を調べ、名前を覚える事だけで精一杯でした。今では共同作業、種子採り、戸定祭、展示会などを通して植物に興味を持ち、少しずつ名前を覚えています。

先輩が研究しているフロックスの花色の多彩さに驚き、ダリアの品種の多さに驚き、ヤブガラシのしぶとさに驚き…。研究室での日々は驚きの連続です。私は登山が好きで、時間があると登山に行くのですが、研究室に所属する前は、ただ頂上を目指して登るだけで、

植物を観察してきませんでした。今では、季節の植物を見つけては時々足を止めて、写真を撮ったり、植物図鑑を持って調べたりしながら登山をしています。

「今日はどんな花に出会えるかな」と、新たな楽しみを見つけました。そんな自分の変化にも驚きです。

戸定祭で松戸と柏合同でおこなうフラワーショップ以外にも、柏メンバーと共に行動することはありますが、多くはありません。花葉会セミナー、種子採り、戸定祭、修論・卒論発表会、追いコンと、2ヶ月に1回くらいの頻度です。研究室配属前に、松戸と柏は交流があると聞いていましたが、想像していたより交流の機会は少なく、たまに柏の学生が松戸に来ると嬉しくてつい呼び止めてしまいます。

本稿執筆時点で、貴重な交流の機会である戸定祭があと2ヶ月と迫っています。大学院の受験が終わり、研究室の先輩や友人の就職先が決まってきて、ホッと一息つく暇もなく準備に追われています。そんな中、私の花卉研究室紹介ムービーのおかげ(?)か、松戸と柏合わせて、今年は6人の学部3年生が新たなメンバーとして加わりました。今の松戸の研究室はとても静かなので、少し賑やかになるかと思います。今後、研究室がどのように変わるか、どんな研究がおこなわれていくかが非常に楽しみです。

気が付けば配属から1年が経ち、あと半年で卒業です。実験で思ったような結果が出なくて落ち込むこともあります。学生同士で励まし合い、研究を進めています。時にはお酒を交えながら談笑します。残りの学生生活を楽しむとともに、1日1日を大切に、悔いのないように過ごしたいと思います。



2015. 3. 31 共同作業後に桜の下で